

阪神・淡路大震災 追悼のことば

(令和 5.1.17 正午 全校放送にて)

皆さん、こんにちは。校長の川崎芳徳です。

授業中ではありますが、今日は1月17日、私たちが、決して忘れてはいけない日ですので、少しの時間、追悼行事を行わせていただきますこと、ご理解ください。

皆さん気付かれていますと思いますが、正門を入ったロータリーには、校務員さんの中村さんが、七夕やクリスマスといった、その時々に合わせて、手造りの見事な電飾のボードを掲げ、私たちの心を潤わせてくれています。それに加えて、1週間前からは「1. 17」の電飾ボードも設置してくれています。また、今日は、グラウンドの掲揚ポールに、人の死を悲しみ悼む気持ち、弔意を表わす「半旗」が掲げられています。

今から28年前の1995年、平成7年1月17日、まだ、多くの方が眠っていた、早朝5時46分52秒に、マグニチュード「7.3」、最大震度「7」という、巨大な「兵庫県南部地震」が発生し、「阪神・淡路大震災」を引き起こしました。

犠牲者、6,434名という、あまりにも多くの尊い命、思い出の詰まった家、住み慣れた街並み、そして一人一人が大切にしていた、あらゆるものを奪い去りました。

お一人お一人、たった一度だけの、尊い、それぞれに夢と希望に満ち、充実した大切な人生の真ただ中だったにも関わらず、この震災が突然に奪い去ったのです。あまりにも惨い出来事でした。

現在、震災を知らない人が増えていく一方、またいつ、大地震、大型台風、集中豪雨などによる災害に見舞われるやも知れない今日、追悼行事を通して、震災の「経験」、そして、そこから得た「教訓」を風化させることなく心に刻み、継承していくことが強く求められています。

皆さん、どうか、これらのことに、心静かに思いを寄せるとともに、ご家族・友人と話題にし、語り継いでいってください。

兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承するとともに、いつまでも忘れることなく、安全で安心な社会づくりを期する日として、1月17日を「ひょうご安全の日」と定めており、現在、HAT神戸にあります「人と防災未来センター」で、追悼行事「ひょうご安全の日1. 17のつどい」が執り行われています。この集いに合わせ、皆さんも一緒に、犠牲になられた多くの方々に対し黙祷を行っていただきたいと思います。

震災で犠牲になられた方々に、心より哀悼の誠を捧げ、追悼のことばといたします。